

NPO法人APLA

2024年度事業報告



フィリピン・ミンダナオのバナナ産地を訪問するツアー（2024年8月実施）

2024年度を振り返って

2024年度は、改めてヴィジョン・ミッションを意識しなおし、APLA設立時からの事業の枠組みを 1)アジア交流 2)教育ワークショップ 3)民衆交易 4)ぽこぽこバナナプロジェクト 5)その他、という形に整理をして活動を展開した一年でした。

APLAの活動の大きな柱である「交流」については、これまでの活動を進化・発展させるような取り組みに加え、東西ティモールの交流という新しい取り組みの種も蒔くことができました。ぽこぽこバナナプロジェクトでは、念願であったバランゴンバナナの絵本を332名もの方のご支援によって制作・発行することができ、絵本を活用した人と人の出会いの場や学びのきっかけとなる場の創出につながられています。

パレスチナにおける状況が最悪を更新しつづけているなかで、パレスチナに関わる日本のNGOとのネットワークに加わり、声明の発出や記者会見の開催などといった取り組みにも力を入れました。1日も早い恒久的停戦、そして占領からの解放によってパレスチナの人びとの自由と平和が取り戻されるように、継続して活動していきます。

アジア交流

1) フィリピンのカネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) を拠点とした交流

■KF-RC研修

2024年3月からKF-RCの研修生として学んだ3名の10期生が2024年10月に卒業し、2025年2月のKF-RC理事会開催のタイミングで卒業式をおこないました。うち2名は、自分の村に戻り、家族の協力を得ながら、動物の飼育と複数種類の野菜栽培に取り組んでいます。残る1名は、研修修了後もKF-RCに残り、スタッフたちの農場の作業を手伝う形で実地研修を続けています。

また、上記研修生の受け入れのほかに、地域の教育機関と協力した短期研修プログラムにも力を入れ始めています。アフリカ豚熱 (ASF) の感染リスクを防ぐために短期研修プログラムの受け入れをストップしていましたが、慎重に検討を重ね、2024年度は、ラカステリアーナ高校の12年生 (※) 12名を受け入れ、合計72時間の研修を実施しました。

※現在のフィリピンの教育制度は、初等教育6年 (Grade1-6)、中等教育4年 (Grade7-10)、高等教育2年 (Grade11-12) となっています。



■適正技術についての学び

新潟食料農業大学 (NAFU) の研究チームによる「未利用バナナやバナナの皮のメタン発酵 (ガスを取り出して調理などに使う) とその残渣を液肥として活用する実験プロジェクト」が進んでおり、継続的に協力しています。昨年に続いた同チームのネグロス訪問では、小型メタン発酵装置をKF-RCとオルタートレード・フィリピン社 (ATPI) のバナナのパッキングセンターに設置し、今後の実用化のためのデータ採取などを開始しています。また、燃料効率の良い改良かまどやロケットストーブを現地で調達できる資材で試作し、KF-RCの卒業生や民衆交易の生産者の地域での活用可能性を探っています。

こうした取り組みをKF-RCの卒業生の新たな学びの機会とするため、同チームの訪問に合わせて「ルーラルキャンパス」も開講し、10名ほどの卒業生が集まりました。



■フィリピンの農民同士の交流

KF-RCの事務局長のエムエムさんと3期研修卒業生のジョナンさんが、ルソン島北部ヌエヴァ・ヴィスカヤ州カシブの柑橘栽培地を訪問しました。カシブは、2024年6月にエムエムさんと一緒に来日したボンボンさんのクミラ・シトラス・ファームがある地域です。ボンボンさんの家族に柑橘の苗作りについてレクチャーを受けたり、ボンボンさんの父親であり地域の先進的な柑橘農家であるギルバート・クミラさんが複合農業を営んでいる農園を訪問したり、二人とも、ネグロスでもぜひ試したい、と思えるような学びをたくさん得ることができました。また、栽培・生産だけでなく、どのように販売するのも重要であること、そのために「需要と供給」という市場の動きを観察することの大切さを教わり、実際に、ヌエヴァ・ヴィスカヤ州の地元生産物が集まる公設市場の見学も叶いました。

今回の交流訪問に参加したジョナンさんからは「北部ルソンを訪問する機会をもらえて、多くのことを学ぶことができました。機会をくださった皆さん、本当にありがとうございます。ぜひ自分以外にもこうした経験ができるように、これからも応援してください」との声が届いています。



2) ティモールやパプアの農民・若者の交流

■東西ティモールの農民・若者の交流

パートナー団体のPermatilが東ティモールの若者向けに毎年開催しているパーマユース・キャンプは、東ティモールの若者たちにとって自分たちの地域の環境保全について体験を通して学ぶ貴重な機会となっています。2024年はエルメラ県ファトゥケルにて10月に開催され、東ティモール各地から参加者が集まったほか、オーストラリアの学生グループやインドネシアの若者が参加し、総勢700名以上参加という過去最大規模のものとなりました。APLAは、例年通りのコーヒー産地のエルメラ県の若者たちに加え、インドネシア・西ティモールからの若者3名の参加を支援しました（エルメラからは7名が参加）。

今年のキャンプでは、テラス式農園・川の水のコントロール・家庭菜園・雨水貯水・雨水利用の5つのテーマが用意され、それぞれのグループに分かれて学びました。キャンプの参加者は、帰宅後に自分の暮らす地域で学んだことを実践することが求められており、APLAが支援したエルメラの若者たちや西ティモールの若者もそれぞれの地で得た知識と経験の還元を試みています。キャンプ終了後には、西ティモールの若者たちがエルメラ県の活動地を訪問し互いに交流する機会や、協力団体であるTILOFE、Permatil、KSIを訪れ意見交換や学びの共有の場を創出しました。



なお、インドネシア・パプアの農民や若者と関わりの「点」とつながりの「線」を増やしていく活動については、事務局のキャパシティ不足で今年度は企画できませんでした。

■東ティモールでの在来の種子の保全活動と気づきの共有

昨年度に引き続き、エルメラの仲間たちと独自の「種子バンク」の保管・運営方法について試行錯誤中です。4月、5月には、エルメラ県で在来の種子に関するアンケート調査を実施し、現在地域で保全されている種子や栽培されている作物について、種子の入手先、過去に栽培・消費されていた作物などについて探りました。7月には、エルメラ県を拠点に活動しているTILOFEや現地の若者たちと「在来の種子保全」の重要性を伝える屋外演劇をエルメラ県のいちばで上演しました。

12月には、この演劇の様子を記録し、説明を加えた動画（日本語字幕付き）を東京・三重の2カ所で上映し、活動の報告会を開催しました。



動画「私たちの種を守ろう！」 https://youtu.be/lroIRkaEN_A?si=RL9hz7CzrcIDH_NR

3) ツアーの企画・コーディネート

民衆交易の生産地を訪問するエクスポージャーツアー

民衆交易のバランゴンバナナの産地の一つであるフィリピン・ミンダナオ島のレイクセブを訪問するツアーを企画し、11名（うち8名が大学生）の参加がありました。参加者の皆さんを対象に『甘いバナナの苦い現実』の編著者でもある石井正子さんによる事前学習会も実施しました。

現地では、バランゴンバナナの生産者や出荷に携わるスタッフの皆さんとの交流、先住民族の村での宿泊やバナナの収穫体験、買取り規格に満たずに廃棄されてしまうリジェクトバナナの活用方法を生産者の皆さんと一緒に考えるワークショップのほか、大手企業のバナナプランテーションが広がる地域の訪問と当事者への聞き取りなどをおこない、「身近な果物バナナ」の産地で何が起こっているのかを直接見聞し、オルタナティブな取り組みである民衆交易の価値を共に考える機会を創出することができました。

バナナの出荷団体であり、今回のツアーの受入れをしてくれたUAVOPIのシッドさんからは、「民衆交易の根幹は、エクスポージャー（さらされること、触れること）、言い換えれば、人と人が出会い、お互いを知ることにあると信じている。今回APLAのおかげでレイクセブの生産者と日本の消費者や若者の皆さんとの関係性が生まれたことがとても嬉しい。これからにつなげていきましょう」というメッセージをいただきました。

グリーンコープ共同体主催のfromネグロス組合員ツアーのコーディネート

コロナ禍で中断していたfromネグロス組合員ツアーが2024年度から再開となり、組合員さん10名、同行事務局2名の皆さんがインドネシア・パプア州を訪問しました。カカオ産地のブラップ村を訪問して生産者の皆さんと交流をし、8年前の組合員ツアーの際に記念植樹して立派に育ったカカオの木との対面の場面も。また、グリーンコープの全面的な支援により2020年末にオープンしたカカオキタのカフェの約4年遅れの「オープニングセレモニー」が開催され、関係者が一堂に会してこれまでの歩みを祝うことができました。



大学等主催のツアーのコーディネート

筑波大学のインドネシア・パプア州での海外研修実施にAPLAとカカオキタ社で協力しました。1年生から3年生の合計4名が参加し、カカオキタでのブリーフィング、カカオ産地ブラップ村滞在（5泊6日）、現地の国立大学訪問、カカオキタのカフェでの職業体験、現地の日本語教師会との交流、パプア・ニューギニアとの国境や付近の移住村・パームオイル農園の見学など、充実した11日間を過ごしました。

昨年度の研修参加者で現在現地の大学で学ぶ学生が、ツアー中にサポートをしてくれた他、後輩たちに経験を共有してくれました。海外渡航が初めて、アジアは初めて、という学生もいて、日本とはまったく異なる村での生活に困惑を感じることもあったようですが、カカオ生産者の皆さんがあたたかく迎え入れてくれたおかげで、全行程を元気に楽しみ、多くの学びを得られる研修となりました。

4) 互恵のためのアジア民衆基金（APF）総会への参加

APFは、日本や韓国の市民の寄附で造成した基金から、フィリピン、インドネシア、パレスチナなど、それを必要とする団体や地域社会に低利で融資する仕組みです。同時に、アジア各地の民衆の経験や知恵を共有し、相互に助け合う役割も果たしており、APLAも社員組織（メンバー）として参加、理事会や総会に出席しています。

2024年度の年次総会は、10月に韓国・ソウルで開催され、APLAからは、新しくAPF理事に就任する箕曲在弘氏（APLA代表理事）、これまでAPF理事を務めた市橋秀夫氏（前APLA共同代表）、事務局長の野川未央の3名で出席しました。特別報告では、パレスチナ農業開発センター（UAWC）から2023年10月7日以降のパレスチナの状況と日本をはじめ各国からの支援を受けての緊急支援プロジェクトの報告や、喫緊の世界課題である気候変動に対する取り組みとして、グリーンコープや韓国のハンサリム生協からの報告があり、APLAからは福島県二本松の営農型発電（ソーラーシェアリング）の取り組みを紹介しました。

5) フィリピンの若手農民の日本への招聘

オルター・トレード・ジャパン (ATJ)、BMW技術協会と共同で、ネグロスからエムエムさん、北部ルソンからボンボンさんを日本に招聘しました。2024年5月末から11日間で、熊本、福岡、東京、山梨、奈良、神戸、大阪、滋賀、福島、山形、そして東京と10都県を回った二人は、APLA総会後の交流会で会員さんたちとの交流を深めた他、農業者の方の訪問（熊本、山梨、福島、山形）では、有機農業・地域資源循環型農業の経験を長く持つ皆さんと交流し、帰国後に自分たちの場所で実現したい新たな目標や夢を得ることができました。

また、グリーンコープならびに生活クラブ関西の組合員さんや職員さんと対面でお会いして、KF-RCの土地取得カンパのお礼を直接お伝えすることができたことに加え、KF-RCでも今後バランゴンバナナを栽培・ATPIに出荷して、民衆交易の生産者としても日本の皆さんとつながれるようになりたい、という思いを強くしていました。

同年代でそれぞれ農業に取り組む二人が一緒に来日し、移動中なども意見を交わしながら、学びを深めていけたことが今回の来日の意義をより高めたように思います。

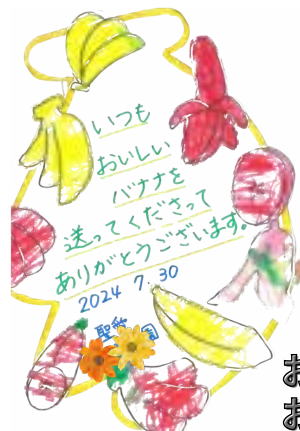


6) 福島子どもたちに届けよう、バナナ募金

2011年3月の福島第一原発の事故後、2012年より、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるように、と開始したバナナ募金。福島県内の保育園・幼稚園へのバランゴンバナナのお届けは、2024年12月をもって終了しました。

【24年度バナナ発送量】 合計1,447kg

【発送先】 合計16施設（いわき市2、福島市11、郡山市1、南相馬市2）



お礼のお手紙



バナナの発送終了に際して、絵本『バナナのらんとごん』の寄贈（※）や今後の新たな交流の提案を目的として、福島県南相馬市、福島市の12の園を訪問しました。



※クラウドファンディングで【子どもたちに絵本を贈るプラン】を選んでくださった26名の方によるご支援で実現しました。

教育ワークショップ

1) 学校、生協、一般向けの出張講座

大学や高校での講義、市民団体主催の講座を通じて、10カ所で合計約750名の方に対して、民衆交易の取り組みや背景について伝えることができました。

グリーンコープ共同体による「fromネグロスセミナー」では、13カ所でネグロスと日本の連帯の歴史、 balanゴンバナナ、エコシュリンプ、パプアのカカオなどの民衆交易の取り組みについて、組合員の皆さんにお伝えすることができました。

2) 学校、生協、一般向けの出張ワークショップ

子ども向けのチョコレートワークショップが好評で、開催が増えています。また、ぽこぽこバナナプロジェクトの絵本『バナナのらんとごん』出版のためのクラウドファンディングの広報を兼ねてのバナナのワークショップを積極的に展開しました。



- ・チョコレートワークショップ：生協9件、地域の国際協力活動グループ1件、子ども向け環境講座2件、百貨店1件（合計参加人数 240名）
- ・バナナワークショップ・絵本読み聞かせなど：24件（合計参加人数 600名）

3) 教材づくり

■ぽこぽこバナナプロジェクト関連

絵本『バナナのらんとごん』の出版を実現することができました。またプロジェクトのメンバー有志の方とバナナすごろくの制作を進め、実際にワークショップを実施したうえで改良を重ねたものを、絵本のクラウドファンディングのリターン品として5名の方に送付をしました。



■展示用パネルの制作

フィリピン産バナナの基本情報について、民衆交易バナナについて、規格外 balanゴンバナナについて、などの情報をわかりやすくまとめた展示パネル（5枚セット）を制作し、希望者への貸出を開始しました。2024年度は、2件の貸出依頼がありました。

※ 荏崎市穴山公民館のご支援により実現しました。



4) その他

■オンラインセミナー「パレスチナのオリーブ生産者は今 2024」開催

パレスチナのオリーブオイルの産地であるヨルダン川西岸地区におけるイスラエル軍や入植者によるパレスチナ人に対する暴力が頻発し、オリーブ生産者は日常的に暴力への恐怖や不安にさらされ、移動も極端に制限された生活を強いられています。2023年に引き続き、オリーブの収穫シーズンを迎えた現地から、イスラエル占領下の生産者の状況を直接伝えてもらうセミナーをオルター・トレード・ジャパン (ATJ) と共催しました。

セミナーのアーカイブ動画、ダイジェスト動画、発表資料は、ウェブサイトに掲載し、どなたでもご覧いただけるようにしています。

<https://www.apla.jp/archives/9205>

【当日の内容】

- ◎ヨルダン川西岸地区の人びとが置かれている現状について
- ◎2023年10月以降のオリーブ生産者の状況と2024オリーブ収穫について
- ◎質疑応答
- ◎UAWC、PARCからのメッセージ



民衆交易事業

■2024年度の売上合計：9,433,280円（予算対比102.9%、前年度対比92.5%）

オンラインショップ：6,358,633円／手わたしバナナくらぶ：1,232,860円

イベント：464,629円／事務所販売：663,326円／その他：723,832円

■オンラインショップ（APLA SHOP）

- APLA SHOPの登録者向けに、隔月でメルマガを配信しています。【登録者：約800名】
- インスタグラムでは、民衆交易の商品情報やイベント情報など、88件の投稿をしました。【フォロワー：556名】
- パレスチナへの連帯・応援の気持ちを込めてオリーブオイルを購入してくれる方が例年より多めですが、パレスチナ現地から届く情報の発信をオリーブオイルの購入に結びつけきれていないという課題も見えた一年でした。
- 2025年3月をもって、コーヒーと民衆交易のお菓子の頒布会を終了しました。

■イベント、PtoPカフェ車の出店

つながりがあるイベントを中心に、物販やPtoPカフェ車で積極的に出店し、民衆交易の商品や規格外未利用バラゴンバナナのアピールをすることができました。

- 物販：アースデイ東京2024（渋谷区）、パルシステム神奈川ハートカフェ、国際有機農業映画祭2024、野のマルシェ（三鷹市）、KINONOマルシェ（鶴見区）など
- PtoPカフェ車：清澄白河ピース・マルシェ（江東区）、麦の収穫祭（東久留米市）、新宿SDGsフェス（新宿区）、明海小学校地区児童育成クラブ（千葉県浦安市）、自由学園バザー（東久留米市）など

■商品の魅力を伝えるイベントの開催

きまぐれや吉田友則シェフのご協力を得て、「民衆交易品を知って楽しむイベント」を3カ月連続で東京都三鷹市の「はかり売りたまちの台所 野の」にて開催しました。民衆交易品の背景を知ってもらうとともに実際に民衆交易品を食べてもらい、より身近に感じてもらうことが目的です。それぞれ「パレスチナのバージンオリーブオイル」「規格外バラゴンバナナ」「カカオ」を扱い、延べ人数で37名にご参加いただきました。



ぽこぽこバナナプロジェクト

2024年度は、1年間で20,540kgの規格外バランゴンバナナを活用することができました（2023年度は12,840kg）。毎月平均で10kgの規格外バランゴンバナナ170ケースの注文があった形となります。また、定期購入も11件に増えました。

一方で、産地の度重なる強風や大雨が原因でバランゴンバナナ自体の輸入量が減っており、それに伴い規格外バランゴンバナナの量も少なくなっているため、2024年冬より、1日の発送数を6ケース程度に制限して販売しています（以前の半分程度）。



ウェブサイト：<https://poco2banana.info>

■絵本『バナナのらんとごん』出版

絵本制作の資金を捻出するため、クラウドファンディングに挑戦しました。最終的に332名の方にご支援いただき、目標金額の250万円を越える約266万円を集めることができました。その結果、2024年12月に絵本が完成、2025年1月より一般販売を開始しました。

■イベント開催

絵本の出版プロジェクトのアピールを兼ねて、数多くのワークショップや読み聞かせ会を各地で実施しました。

- ・絵本の読み聞かせなどを含むワークショップ：「ぽこぽこバナナ祭り」（川崎市）、「つながる夏」（鳥取県）、「ぽこぽこバナナの日inおおさき」（鹿児島県）など、合計16件
- ・すごろくを使ったワークショップ：「プラザdeカフェ 身近なSDGs バランゴンバナナすごろく」（藤沢市）、「開発教育協会d-lab2024」（新宿区）など、合計3件
- ・規格外バランゴンバナナについてお話する会：穴山公民館祭り（韮崎市）、「エコルシェ」（横須賀市）など、合計5件

絵本の完成後には、原画の展示や絵本の販売に加えて、シルクスクリーン印刷やバナナの香水づくりなどの企画も盛り込んだ絵本のおひろめのためのイベントを東京都内2カ所で開催しました。



■プロジェクトメンバー同士の交流

メンバー間で活動をシェアするオンラインミーティングを毎月継続開催（2025年2月よりお休み）

その他

1) 海外の民衆交易の産地における地域活動の後方支援

■インドネシアでの環境保全活動

エコシュリンプの産地であるインドネシア・東ジャワ州での環境保全活動のための資金獲得や日本の支援者の皆さんへの情報発信に取り組みました。

特に、東ジャワ州シドアルジョ県カラングニャル村では、パートナー団体のKOIN（インドネシア環境保全）が地域の組織と協働して、回収した家庭ごみのさまざまな形での活用を模索しており、1) 女性の仕事創出：プラスチック包材をアップサイクリングした小物づくり、2) 焼却灰の活用：灰をアップサイクリングした舗装ブロック製造、3) 有機ごみの活用：有機堆肥づくりと野菜の栽培・養殖魚の餌となる虫の養育やバイオガス抽出、に積極的に取り組んでいます。2024年度は、APLAを通じて1) の小物を日本で紹介・販売することができました。



2) 緊急支援

■パレスチナ・ガザ地区およびヨルダン川西岸地区への緊急救援

2023年10月7日以降、深刻化する人道的状況に対応するため、パレスチナのオリーブオイルの出荷団体であり、農民団体でもあるパレスチナ農業開発センター（UAWC）は、「Stop Gaza Starvation（ガザの飢餓を止める）」キャンペーンを継続的に展開しており、苦境にある人びとの生計を支えるため、避難中の家族を支援するため、そして緊急のニーズに対応するために、様々な活動に取り組んでいます。また、オリーブの産地であるヨルダン川西岸地区でも入植者やイスラエル軍による襲撃・暴力がエスカレートしており、農地の破壊や強制立ち退きの事例も多数報告されているため、西岸地区で避難生活を送る農民や遊牧民に対する支援も実施しています。UAWCから送られてきた緊急アピールを受け、APLAでは2024年度も募金を呼びかけた結果、2024年12月末までに多くの皆さまからの連帯の気持ちと共に308,968円の募金が集まり、オルター・トレード・ジャパン（ATJ）を通じて、UAWCに送金しました。2025年度も継続して募金を呼びかけていきます。

UAWCによる緊急支援活動の詳細報告は、2024年10月と2025年2月に届いており、APLAではその日本語訳を作成し、Webサイトで公開しています。そのほかにも現地からの緊急報告などを随時翻訳し、ウェブサイトやSNSで発信しています。



■フィリピン・ネグロス島でのカンラオン山噴火による被災者への支援

2024年12月9日午後3時頃、ネグロス島のカンラオン火山が噴火しました。6月に続いての大規模な噴火です。噴火警戒レベルは5段階のうち上から3番目の「レベル3」に引き上げられ、火口から半径6キロ以内の区域は立ち入り禁止となり、フィリピンの災害対策当局は、周辺に住むおよそ8万7000人の住民に対し、学校や教会、村の集会所などへの避難を呼びかけました。

カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）自体の被害はそれほど大きくありませんでしたが、避難区域に該当するバイス村、イリハン村、マアオ村に暮らす3名の卒業生とその家族が今回の降灰の被害にあったとの報告を受け、KF-RCのスタッフと相談のうえ、APLAとして「緊急災害支援準備金」から、お米や飲料水、その他食料を支援しました。



* 2024年度末時点での「APLA緊急災害支援準備金」残額：4,947,477円

3) 活動全般に関する広報活動、会員・サポーターに向けた広報・情報発信

■機関誌『ハリーナ』

年に2回発行。APLAが大切にしたい考え方やアジア各地からの生の情報をお届けします。

53号（2024年8月）

[特集] 東西ティモール 二つの国家で生きる人びと

54号（2025年2月）

[特集] 戦後80年、日本軍「慰安婦」問題とどう向き合うか
—東南アジアのサバイバーたちの声を聴く—



■『PtoP NEWS』

ATJと協同で隔月発行。民衆交易の商品や生産者のこと、裏話などをお伝えしています。2024年度のラインナップは以下の通りです。

vol. 61（4月）ぽこぽこバナナプロジェクト ネグロス初訪問

vol. 62（6月）オーガニック？フェアトレード？マスコバド糖のギモン

vol. 63（8月）海の農業 ゲランドの塩作り

vol. 64（10月）パプアのカカオ生産者協同組合がんばっています！

vol. 65（12月）バランゴンバナナ民衆交易の多様な役割と意義

vol. 66（2月）オリーブの木は「スムード」のシンボル



* バックナンバー（『ハリーナ』は最新号をのぞく）は、全ページをウェブサイトで公開しています。

<https://www.apla.jp/archives/publications-cat/halina>

<https://www.apla.jp/archives/publications-cat/ptop>

4) 調査研究

■フェアファイナンスガイド・ジャパン（FFGJ）

日本の大手金融機関の投資融資方針を社会性の視点から格付けするフェアファイナンスガイド・ジャパン（FFGJ）の一運営団体として、APLAは、主にSNSでの情報発信を担っています。格付けスコアだけでなく、問題企業・事業をピックアップし、投融資方針と実態の差異に光を当てるための「ケース調査」も実施し、環境破壊や人権侵害等への資金循環を止めていくことを目指しています。

2024年度は、「雲をつかむような開発計画 フィジー：ワイソイ銅鉱山および周辺開発の是非を問う」「不満・不信感を助長する補償交渉 インドネシア：パホドピ鉱山及び製錬所計画を巡る実態」「森林保護方針の裏側でいまなお続く森林破壊 グリーンウォッシュに加担する三菱UFJ」の3本のケース調査報告書を公開しました。



ウェブサイト：<https://fairfinance.jp/>

Facebookページ：<https://www.facebook.com/fairfinanceguidejapan/>

Instagram：https://www.instagram.com/fairfinanceguide_japan/

5) オープンテラス

2024年度は事務局のキャパシティ不足で企画・開催が叶わず、2025年度の実施に向けて、事務局や理事会で内容について相談を進めています。

6) 他団体とのネットワーク

- パレスチナの和平を求めるアクション実行委員会
- NGO非戦ネット

「パレスチナの和平を求めるアクション実行委員会」として、ガザの恒久的停戦とパレスチナの和平を求める声明を発出し、2025年3月28日に記者会見を実施しました。記者会見の様子はYouTubeでご覧いただけます。



<https://youtu.be/4TzZt7sEbrY?si=CgX5MXFrPdn7x5so>

会員数報告（2025年3月末時点）

	個人	団体	合計
正会員	67	31	98
賛助会員	75	11	86
合計	142	42	184

組織体制ほか

■組織体制

理事：箕曲在弘（代表理事） 野川未央（事務局長） 赤松結希 秋山詩歩 秋山澄兄 鹿毛優子
近藤恵 津留歴子 寺内大左 廣瀬康代 力久敦（以上11名）
監事：黒岩竜太
顧問：弘田しずえ、前島宗甫
事務局員：野川未央（事務局長/専従）、福島智子（専従）、坂野亜希子（パートタイム）、
納村ひとみ（パートタイム）、松村多悠子（パートタイム）

■総会・理事会・評議員会

総会：第17回総会（2024年6月1日）

理事会：第56回（2024年4月21日）、第57回（2024年6月10日）、第58回（2024年9月22日）、第59回（2025年2月8日）



特定非営利活動法人APLA www.apla.jp
東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿3F
TEL：03-5273-8160／FAX：03-5273-8667
E-mail：info@apla.jp